

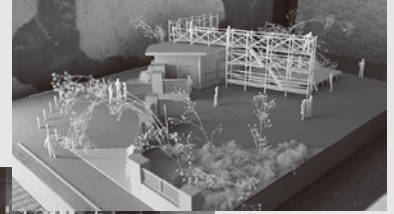
門衛所プロジェクト

松ヶ崎キャンパス東門の横にたたずむ門衛所。
機能を失ったこの建築を再生し
分野を横断した議論の場、実験の場として
活用するプロジェクトが進行しています。
その活動内容・成果についてメンバーである
建築学専攻M1の岡航世さん、安井涼さん、
岩田祥英さんに語ってもらいました。



Fig.1——左から岩田さん、安井さん、岡さん

Fig.2——「建築の一時的な拡張」の模型



——門衛所プロジェクト発足のきっかけについて教えてください。

岩田 プロジェクトの対象である門衛所は、本学の前身校である京都高等工芸学校の教授、本野精吾が携わった現3号館と同時期の建築です。登録有形文化財に登録されています。

岡 1990年代以降は門衛所としての機能を失い、30年近く活用されずに放置されてきました。室内に保管されていたブルーシートが劣化して粉になるほど、手つかずの状態でした。

岩田 畳や家電、窓のサッシなども手を加えられておらず、当時の趣がそのまま残されていました。

岡 この活動の始まりは2023年の冬でした。ちょうど卒業制作に取り組んでいた時期で、「実現しない模型をつくることに意味はあるのか?」と思い悩んでいました。そこで、別の角度から建築にアプローチしたい、1分の1スケールの建築を扱いたいと考え、身近にある門衛所に着目したのです。そこから数名の友人に声を掛けて活動をスタートし、2024年4月にプロジェクト化しました。

——これまでの活動内容・成果について教えてください。

安井 プロジェクト化した後、まず門衛所の実測ワークショップを開催しました。歴史系の研究室の方々に手法を教わりながら、実測と図面作成を行いました。

岡 プロジェクトをスタートした背景には、垣根を越えた活動をしたいという思いもありました。それを実現し、研究室や学年の枠を越えて活動できたので、実測ワークショップは特に印象に残っています。

岩田 7月には「掘り出し物展」を開催しました。門衛所を掃除した時に出てきた遺物をテーマにした企画です。それぞれの遺物について調査を行い、説明文を付けて門衛所内に展示しました。

安井 床板をはがして展示に利用するなど、どのような見せ方ができるか、ひたすら可能性を探りました。

岡 建築の先生にも興味を持っていただきました。中でも近代建築を専門とするデザイン・建築学系 笠原一人先生が面白がってくださり、先生が実行委員長を務める「京都モダン建築祭」でも紹介してもらいました。

安井 これまでで最も大きな活動が、11月の松ヶ崎祭(大学祭)での企画です。「建築の一時的な拡張」をテーマに、門衛所の潜在的な可能性を最大限引き出すための仮設建築を設計しました。

岩田 拡張というテーマに基づき、2階建ての足場を設置し、さまざまな角度から門衛所を見てもらう企画を行いました。大規模な増築でしたが、工務店の職人の方々から資材面・技術面のサポートを受けることで実現できました。

岡 設営の段階から「あれは何だろう?」と足を止める人の姿が見られました。松ヶ崎祭当日も多くの方に来訪いただき、普段は関心を寄せられない門衛所を知ってもらえる機会になったと思います。

——今後の展望について教えてください。

岡 今までの活動はイベントが中心だったので、ハード面の整備はまだこれからです。整地や柵・窓の修繕、あとはウッドデッキをつくりたいですね。

安井 小さなバージョンが長いスパンで続いていくといいなと思います。

岩田 これまで門衛所プロジェクトに関わってきた人以外も使えるような場所にしていきたいですね。

岡 これまでは建築学の枠内で領域横断を図ってきましたが、他の学問分野にも連携の幅を広げられればと思います。2025年度からは後輩にバトンタッチしますが、「誰が、いつ、何に使ってもいい場所」として可能性が広がっていくとうれしいです。

門衛所を起点に広がる連携の輪
実在する建築を「学びの舞台」にすることの意義